

**IBM SPSS Modeler
Administration Console 17
ユーザー・ガイド**

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、23 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM SPSS Modeler バージョン 17 リリース 0 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM SPSS Modeler Administration
Console 17 User Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

目次

前書き	v	SPSS Modeler Server の構成	9
IBM Business Analytics について	v	接続/セッション	9
技術サポート	v	Analytic Server 接続	9
第 1 章 はじめに	1	データ ファイルへのアクセス	9
管理対象 Server	1	パフォーマンス/最適化	10
新しい管理対象サーバーの追加	1	SQL	12
管理対象サーバー名および種類の選択	1	SSL	13
管理されたサーバーの情報	2	Coordinator of Processes の構成	13
管理対象サーバー・プロパティの表示	3	options.cfg で表示されるオプション	14
管理対象サーバーへの接続	3	SPSS Modeler Server の監視	15
管理対象サーバーの接続解除	4	第 4 章 IBM SPSS Text Analytics	
管理対象サーバーの削除	4	Administration Console の使用	17
第 2 章 IBM SPSS Modeler		IBM SPSS Text Analytics Administration Console の	
Administration Console のインストール . 5		開始	17
Modeler Administration Console のシステム要件	5	サーバー構成設定	17
Modeler Administration Console のインストール	5	サーバー・セッション・テーブル	19
第 3 章 IBM SPSS Modeler		第 5 章 Web サービスの再起動	21
Administration Console の使用	7	特記事項	23
Modeler Administration Console の始動	7	商標	24
Modeler Administration Console でのアクセスの構成	7	索引	25
ユーザー・アクセス制御を使用するアクセスの構成	8		
SPSS Modeler Server の接続	8		

前書き

IBM® SPSS® Modeler は、IBM Corp. が開発した企業強化用のデータ・マイニング・ワークベンチです。SPSS Modeler を使用すると、企業はデータを詳しく調べることで顧客および一般市民とのリレーションシップを強化することができます。企業は、SPSS Modeler から得た情報に基づいて利益をもたらす顧客を獲得し、抱き合わせ販売の機会を見つけ、新規顧客を引き付け、不正を発見し、リスクを軽減し、政府機関へのサービスの提供を改善することができます。

SPSS Modeler の視覚的インターフェースを使用すると、特定ビジネスの専門知識を適用し、より強力な予測モデルを実現し、解決までの時間を短縮できます。SPSS Modeler は、予測、分類、セグメント化、および関連性検出アルゴリズムなど、さまざまなモデリング手法を提供します。モデルを作成した後は、IBM SPSS Modeler Solution Publisher により、企業全体の意思決定者やデータベースにモデルを配布することが可能になります。

IBM Business Analytics について

IBM Business Analytics ソフトウェアは、整合性のある完全で正確な情報を提供します。意思決定者はこの情報を信頼してビジネス・パフォーマンスを向上させることができます。ビジネス・インテリジェンス、予測分析、財務パフォーマンスと戦略の管理、および分析アプリケーションの包括的ポートフォリオであるこの製品は、現在のパフォーマンスに対する明確で実用的な洞察を迅速に提供し、将来の成果の予測を可能にします。豊富な業界ソリューション、実績のある実例、専門的サービスを組み合わせることにより、あらゆる規模の組織が、最高の生産性を推進し、自信を持って意思決定を自動化し、よりよい結果を実現することができます。

このポートフォリオの一部である IBM SPSS Predictive Analytics ソフトウェアにより、組織は、将来の事象を予測し、その洞察に基づいて積極的に行動して、より優れた業績を実現することができます。全世界の企業、政府、学術分野のお客様が IBM SPSS の技術を活用して、不正行為を抑制し、リスクを軽減させながら、顧客の獲得、維持、拡大において、競争力を高めています。IBM SPSS ソフトウェアを日々の業務に取り入れることにより、組織は予測能力を高めることができます。業務目標の実現に向けて意思決定を自動化し、高い競争優位性を獲得することが可能になります。より詳しい情報については、または担当者への連絡方法については、<http://www.ibm.com/spss> にアクセスしてください。

技術サポート

お客様はテクニカル・サポートをご利用いただけます。技術サポートでは、IBM Corp. 製品の使用に関して、または、サポート対象のハードウェア環境でのインストールに関して、お客様からのお問い合わせを受け付けています。技術サポートへの連絡方法については、IBM Corp. の Web サイト (<http://www.ibm.com/support>) にアクセスしてください。支援を要請される場合は、事前にユーザー、会社組織、およびサポート契約が分かるように準備していただくようお願いします。

第 1 章 はじめに

管理対象 Server

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager のサーバー管理では、次のことを行います。

1. 管理対象サーバーをシステムに追加する。
2. 管理対象のサーバーにログインする。
3. 必要に応じてサーバーの管理タスクを実行する。
4. 管理対象のサーバーからログオフする。

「サーバー管理」タブで、この機能を使用します。このタブには、現在管理に使用できるサーバーが表示されています。このリストは IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager セッション間で共有され、これらのサーバーにアクセスできます。

メニューから次の項目を選択します。

「ツール」 > 「サーバー管理」

管理対象サーバーには、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバー、IBM SPSS Modeler サーバー、および IBM SPSS Statistics サーバーなど、さまざまな種類のサーバーを追加できます。サーバーに使用できる実際の管理機能は、サーバーの種類によって異なります。例えば、セキュリティー・プロバイダをレポジトリ サーバーに関して設定および有効化することはできませんが、IBM SPSS Modeler サーバーに関してはできません。

新しい管理対象サーバーの追加

管理タスクを実行する前に、管理対象サーバーへの接続を確立する必要があります。

メニューから次の項目を選択します。

「ファイル」 > 「新規」 > 「管理対象サーバーの接続」

「新しい管理対象サーバーの追加」ダイアログ・ボックスが開きます。新しい接続を追加するには、管理対象サーバーの種類の指定や、管理対象セキュリティー・サーバーの情報が必要です。

管理対象サーバー名および種類の選択

新しい管理対象サーバーをシステムに追加する最初の手順には、サーバーの名前とタイプの定義が含まれません。

名前: 「サーバー管理」タブでサーバーの特定に使用するラベル。 *my_server:8080* のように、名前にポート番号を使用すると、管理対象サーバーのリストのサーバーを特定するのに役立ちます。

注: 英数字の使用が推奨されています。次の記号は使用できません。

- 引用符 (一重および二重)
- アンパサンド (&)

- 小なり記号 (<) および大なり記号 (>)
- スラッシュ (/)
- 期間
- コンマ
- セミコロン

タイプ: 追加するサーバーの種類。使用できるサーバーの種類のリストは、システム設定によって異なり、次のサーバーを指定することができます。

- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバー
- 管理対象 IBM SPSS Modeler Server
- 管理対象 IBM SPSS Statistics Server
- 管理対象 IBM SPSS Modeler Text Analytics Server

管理対象サーバーの種類を選択

「管理対象サーバーの種類を選択」ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します。

1. サーバーの名前を入力します。
2. サーバーの種類を選択します。
3. 「次へ」をクリックします。「管理対象 Server の情報」ダイアログ・ボックスが開きます。

管理されたサーバーの情報

新しい管理対象サーバーをシステムに追加する 2 番目の手順は、サーバーのプロパティを定義します。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバーについては、サーバー URL を指定できます。

URL には、次の要素が含まれます。

- 接続スキームまたは接続プロトコル (Hypertext Transfer Protocol 用の *http*、Secure Sockets Layer (SSL) を使用した Hypertext Transfer Protocol 用の *https* のいずれか)
- ホスト・サーバー名または IP アドレス

注: IPv6 アドレスは、[3ffe:2a00:100:7031::1] のように角括弧で囲む必要があります。

- ポート番号。リポジトリ・サーバーがデフォルトのポート (*http* の場合はポート 80、*https* の場合はポート 443) を使用する場合、ポート番号はオプションです。
- オプションでリポジトリ・サーバーに対するカスタム・コンテキスト・パス

表 1. URL の指定例：サーバー接続に対する URL の指定例をいくつか、次の表に示します。

URL	スキーム	ホスト	ポート	カスタム・パス
http://myserver	HTTP	<i>myserver</i>	デフォルト (80)	(なし)
https://9.30.86.11:443/spss	HTTPS	9.30.86.11	443	<i>spss</i>
http://[3ffe:2a00:100:7031::1]:9080/ibm/cds	HTTP	3ffe:2a00:100:7031::1	9080	<i>ibm/cds</i>

サーバーに対して使用する URL が不明な場合は、システム管理者に連絡してください。

その他の種類のサーバーについて、選択可能なプロパティには以下の項目があります。

ホスト サーバーの名前または IP アドレス。

注: 英数字の使用が推奨されています。次の記号は使用できません。

- 引用符 (一重および二重)
- アンパサンド (&)
- 小なり記号 (<) および大なり記号 (>)
- スラッシュ (/)
- 期間
- コンマ
- セミコロン

ポート サーバー接続に使用するポート番号。

これはセキュア・ポートです。

サーバー接続の Secure Sockets Layer (SSL) の使用を有効または無効にします。このオプションは、すべての種類の管理対象サーバーに提供されているわけではありません。

注: SSL 用にサーバーをセットアップして管理コンソールを使用するには、Modeler Server が必要とする証明書をすべて、Deployment Manager トラストストア (../jre/lib/security の下) にインポートする必要があります。

プロパティを定義すると、新規サーバーが、「サーバー管理」タブの管理対象サーバーのリストに含まれます。

管理対象サーバー・プロパティの表示

既存の管理対象サーバーのプロパティを表示するには、「サーバー管理」タブのサーバーを右クリックして、ドロップダウン・メニューの「プロパティ」を選択します。

表示されるプロパティは、選択したサーバーの種類によって異なります。

IBM SPSS Modeler Server のプロパティ

IBM SPSS Modeler Server の場合、プロパティには次の項目が表示されます。

- **サーバー名:** IBM SPSS Modeler Server がインストールされているコンピューターの名前。
- **サーバーのバージョン:** IBM SPSS Modeler Server のバージョン。
- **サーバーのオペレーティング・システム:** IBM SPSS Modeler Server がインストールされているコンピューターのオペレーティング・システム。
- **サーバーのメモリー:** IBM SPSS Modeler Server がインストールされているマシンで使用できる RAM の量。
- **使用可能なプロセッサ:** IBM SPSS Modeler Server マシンで使用できるプロセッサ数。

IBM SPSS Modeler Server のプロパティは変更できません。

管理対象サーバーへの接続

多くのサーバーで、管理タスクを実行するには、管理対象サーバー・リストのサーバーに接続する必要があります。「サーバー管理」タブで、管理するサーバーをダブルクリックします。

管理対象サーバーの接続解除

管理タスクを実行したら、サーバーからログアウトします。

1. 「サーバー管理」タブで、サーバーを右クリックします。
2. 「ログオフ (Logoff)」を選択します。

サーバーを管理するには、もう一度ログインする必要があります。

管理対象サーバーの削除

リストから削除されるまでは、サーバーは「サーバー管理」タブの管理対象サーバーのリストに表示されません。

1. 「サーバー管理」タブで、削除するサーバーを選択します。
2. メニューから次の項目を選択します。

「編集」 > 「削除」

または、サーバーを右クリックし、ドロップダウン・メニューから「削除」を選択します。

今後、サーバーの管理タスクがさらに必要な場合、サーバーをシステムに再度追加する必要があります。

第 2 章 IBM SPSS Modeler Administration Console のインストール

IBM SPSS Modeler Administration Console のインストールについて以下に説明します。Modeler Administration Console について詳しくは、7 ページの『第 3 章 IBM SPSS Modeler Administration Console の使用』を参照してください。

Modeler Administration Console のシステム要件

Modeler Administration Console のシステム要件を確認するには、<http://www.ibm.com/software/analytics/spss/products/modeler/requirements.html> にアクセスしてください。

注: Modeler Administration Console をインストールできるのは Windows コンピューターのみですが、サポート対象の任意のプラットフォームにインストールされた SPSS Modeler Server を管理できます。

- **SPSS Modeler ソフトウェア:** ネットワーク上にリリース 12.0 またはそれ以降の SPSS Modeler Server がインストールされている必要があります。
- **追加要件:** IBM SPSS Modeler Administration Console ホスト・コンピューターには、IBM SPSS Modeler Server をホストするコンピューターに対するネットワーク接続が必要です。

Modeler Administration Console のインストール

Modeler Administration Console のインストール方法

1. SPSS Modeler Server のインストールディスクをディスク・ドライブに挿入します。自動再生機能によりメニューが表示されます。
2. 自動再生メニューで「*Modeler Administration Console* のインストール」をクリックし、画面に表示される指示に従います。
3. 7 ページの『Modeler Administration Console の始動』の説明に従ってコンソールを開始します。

既存の Deployment Manager インストール済み環境の使用

IBM Corp. 製の他のサーバー・アプリケーションを管理するために、いずれかのバージョンの Deployment Manager を既にインストール済みの場合、SPSS Modeler Server の管理機能を既存の Deployment Manager インストール済み環境に追加できます。

「*Modeler Administration Console* のインストール方法」で説明した手順に従ってください。必ず既存の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager インストール済み環境と同じディレクトリーにインストールしてください (例えば、*C:\Program Files\IBM\SPSS\Collaboration and Deployment Services\Deployment Manager*)。インストーラーによって新規の IBM SPSS Modeler Server ファイルが既存のインストール済み環境に追加されます。

第 3 章 IBM SPSS Modeler Administration Console の使用

Modeler Administration Console アプリケーションは、SPSS Modeler Server のインストール済み環境を監視および構成するためのコンソール・ユーザー・インターフェースを提供します。SPSS Modeler Server の現行ユーザーは、このアプリケーションを無料で入手できます。このアプリケーションをインストールできるのは Windows コンピューターのみですが、サポート対象の任意のプラットフォームにインストールされたサーバーを管理できます。

Modeler Administration Console で使用可能なオプションの多くは、*options.cfg* ファイルでも指定できます。このファイルは、SPSS Modeler Server のインストール・ディレクトリー内の */config* の下にあります。ただし、Modeler Administration Console アプリケーションに備わっている共有グラフィカル・インターフェースを使用すれば、複数のサーバーに対する接続、構成、監視が可能です。

Modeler Administration Console の始動

Windows の「スタート」メニューから、「(すべての) プログラム」、「IBM SPSS Collaboration and Deployment Services」、「Deployment Manager」、「IBM SPSS Modeler Administration Console <nn.n>」の順に選択します。

アプリケーションを初めて実行すると、「サーバー管理」ペインおよび「プロパティ」ペインが空白の状態が表示されます (IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバー接続をあらかじめ設定した状態で Deployment Manager を既にインストールしてある場合を除く)。Modeler Administration Console の構成が完了すると、左側の「サーバー管理者」ペインに、管理対象の各 SPSS Modeler Server のノードが表示されます。右側のペインには、選択したサーバーの構成オプションが表示されます。最初に、管理対象のサーバーごとに接続をセットアップする必要があります。

Modeler Administration Console でのアクセスの構成

Modeler Administration Console を介した SPSS Modeler Server への管理者アクセスは、*/config* の下の SPSS Modeler Server インストール・ディレクトリーにある *options.cfg* ファイルの *administrators* の行で制御されます。この行はデフォルトでコメント化されているため、この行を編集して特定のユーザーに対してアクセスを許可するか、* を使用してすべてのユーザーに対してアクセスを許可する必要があります。以下にその例を示します。

```
administrators, "*"
administrators, "jsmith,mjones,achavez"
```

- 各行は *administrators*, で始め、エントリーは二重引用符で囲む必要があります。エントリーには大/小文字の区別があります。
- 複数のユーザー ID はコンマで区切ります。
- Windows アカウントの場合、ドメイン・ネームを使用しないでください。
- アスタリスクの使用には注意が必要です。アスタリスクを使用すると、IBM SPSS Modeler Server に対する有効なユーザー・アカウントを持つ人は誰でも (ほとんどの場合、ネットワーク上のすべての人が)、ログインして構成オプションを変更できるようになります。

ユーザー・アクセス制御を使用するアクセスの構成

Modeler Administration Console を使用して、ユーザー・アクセス制御 (UAC) が有効になっている Windows マシンにインストールされた SPSS Modeler Server 構成を更新するには、読み取り権限、書き込み権限、および実行権限が *config* ディレクトリーと *options.cfg* ファイルに対して定義されている必要があります。これらの (NTFS) 権限は、グループ・レベルではなく特定のユーザー・レベルで定義される必要があります。これは、UAC と NTFS 権限が相互作用する方法に起因する要件です。

SPSS Modeler Server の接続

管理対象のネットワーク上の各 SPSS Modeler Server に対して、接続を指定する必要があります。その後、各サーバーにログインする必要があります。サーバー接続は Modeler Administration Console のセッション全体にわたって記憶されますが、ログイン資格情報は記憶されません。Modeler Administration Console を始動するたびにログインする必要があります。

サーバー接続のセットアップ

1. IBM SPSS Modeler Server サービスが開始していることを確認します。
2. 「ファイル」メニューから「新規」、「管理サーバーの接続」の順に選択します。
3. ウィザードの最初のページで、サーバー接続の名前を入力します。この名前は自分専用で、例えば **実動サーバー** のように、説明的なものにする必要があります。「種類」が「**管理 IBM SPSS Modeler Server**」に設定されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
4. 2 番目のページで、サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。ポートをデフォルトから変更した場合は、そのポート番号を入力します。「終了」をクリックします。新しいサーバー接続が、「サーバー管理者」ペインに表示されます。

管理タスクを実行するには、ここでログインする必要があります。

サーバーへのログイン

1. 「サーバー管理者」ペインで、ログインするサーバーをダブルクリックして選択します。
2. 「ログイン」ダイアログ・ボックスで、資格情報を入力します。(サーバー・ホストに対するユーザー・アカウントを使用します。)「OK」をクリックします。

ログインが失敗し、「サーバーの管理者権限を取得できません」というメッセージが表示された場合は、管理者権限が正しく構成されていないと考えられます。詳しくは、7 ページの『Modeler Administration Console でのアクセスの構成』のトピックを参照してください。

ログインに失敗して、「サーバー <server> への接続に失敗しました」というメッセージが表示された場合は、ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認し、IBM SPSS Modeler Server サービスが実行されていることを確認します。例えば Windows の場合は、「コントロール パネル」>「管理ツール」>「サービス」を選択して、IBM SPSS Modeler Server のエントリーを確認してください。「状態」列に「開始」と表示されていない場合は、画面のこの行を選択して、「開始」をクリックし、ログインを再試行してください。

IBM SPSS Modeler Server にログインすると、サーバー名の下に、「構成」と「監視」の 2 つのオプションが表示されます。これらのオプションの 1 つをダブルクリックします。

SPSS Modeler Server の構成

「構成」ペインには、SPSS Modeler Server の構成オプションが表示されます。このペインを使用して、必要に応じてオプションを変更します。変更内容を保存するにはツールバーにある「保存」をクリックします。(ポート番号を変更した場合は、変更を有効にするためにサーバーを再起動する必要があります。)

以下のセクションでオプションについて説明します。各オプションの括弧内に、options.cfg 内の対応する行を示します。options.cfg のみに表示されるオプションについては、このセクションの最後で説明します。

注: 非 root ユーザーがこれらのオプションを変更する場合、SPSS Modeler Server の **config** ディレクトリに対する書き込み権限が必要です。

接続/セッション

接続の最大数: (max_sessions) 同時に存在できるサーバー・セッションの最大数。値 -1 は制限がないことを示します。

ポート番号: (port_number) SPSS Modeler Server が listen するポート番号。別のアプリケーションが既にデフォルトを使用している場合は、これを変更します。エンド・ユーザーは、SPSS Modeler Server を使用するためにポート番号を知っている必要があります。

Analytic Server 接続

Analytic Server SSL の有効化 (as_ssl_enabled) Analytic Server と SPSS Modeler の間の通信を暗号化する場合 Y を指定し、暗号化しない場合は N を指定します。

ホスト (as_host) Analytic Server の IP アドレス。

ポート番号 (as_port) Analytic Server のポート番号。

コンテキスト ルート (as_context_root) Analytic Server のコンテキスト・ルート。

テナント (as_tenant) SPSS Modeler Server のインストール済み環境が属しているテナント。

パスワードを求めるプロンプト (as_prompt_for_password) SPSS Modeler Server が、Analytic Server で使用されているユーザーおよびパスワードの認証システムと同じ認証システムを使用して構成されている場合、N を指定してください。それ以外の場合には Y を指定してください。

データ ファイルへのアクセス

データ ファイル パスのみにアクセスを制限: (data_files_restricted) このオプションをはい に設定すると、データ・ファイルの場所が、標準のデータ・ディレクトリーおよび下記の「データ ファイル パス」にリストされたディレクトリーに制限されます。

データ ファイル パス: (data_file_path) クライアントがデータ・ファイルを読み書きできる追加のディレクトリーのリスト。このオプションは、「データ ファイル パスのみにアクセスを制限」オプションが選択されていない場合は無視されます。すべてのパス名には、スラッシュ記号 (斜線) を使用する必要があります。Windows では、複数のディレクトリーを指定する場合はセミコロン (;) で区切ります (例: [server install path]/data;c:/data;c:/temp)。Linux および UNIX では、セミコロンの代わりにコロン (:) を使用します。データ・ファイル・パスには、以下に説明する temp_directory パラメーターによって指定されたパスがすべて含まれていなければなりません。

プログラム ファイル パスのみにアクセスを制限: (program_files_restricted) このオプションを「はい」に設定すると、プログラム ファイルへのアクセスが、標準の bin ディレクトリと、下記の「**プログラム ファイル パス**」に記載されたディレクトリだけに制限されます。リリース 17 の時点でアクセスが制限されている唯一のプログラム ファイルは、Python 実行ファイルです (以下の「**Python 実行パス**」を参照)。

プログラム ファイル パス: (program_file_path) クライアントがプログラムを実行できる追加のディレクトリのリスト。「**プログラム ファイル パスのみにアクセスを制限**」がオンにされていないかぎり、このオプションは無視されます。すべてのパス名には、スラッシュ記号 (斜線) を使用する必要があります。複数のディレクトリーを指定するにはセミコロン (;) で区切ります。

最大ファイル サイズ (MB):(max_file_size) ストリームの実行中に作成される一時データ・ファイルおよびエクスポート・データ・ファイルの最大サイズ (SAS および SPSS Statistics のデータ・ファイルには適用されません)。値 -1 は制限がないことを示します。

一時ディレクトリー: (temp_directory) 一時データ・ファイル (キャッシュ・ファイル) の保管に使用されるディレクトリー。このディレクトリーは、別個の高速のドライブまたはコントローラーに配置するのが理想的です。このディレクトリーへのアクセス速度は、パフォーマンスに大きな影響を与える可能性があるからです。複数の一時ディレクトリーを指定するには、それらをコマンドで区切ります。これら複数のディレクトリーは、それぞれ別のディスクに配置する必要があります。最初のディレクトリーが最も頻繁に使用され、追加の各ディレクトリーは、ある種のデータ準備操作 (ソートなど) の実行中に並行処理が行われる場合に、一時的な作業ファイルを保管するために使用されます。各実行スレッドで、一時ストレージとして別々のディスクを使用できるようにすると、パフォーマンスが向上します。すべてのパス指定でスラッシュを使用してください。

注: SPSS Modeler Server の起動時に、このディレクトリ内に一時ファイルが生成されます。このディレクトリーへの必要なアクセス権限があることを確認してください (例えば、一時ディレクトリーが共有ネットワーク・フォルダーである場合)。権限がない場合は、SPSS Modeler Server の始動が失敗します。

Python 実行パス: (python_exe_path) 実行ファイル名を含む Python 実行ファイルの絶対パス。プログラム ファイルへのアクセスが制限されている場合は、Python 実行ファイルが格納されているディレクトリーを、そのプログラム ファイルのパスに追加する必要があります (上記の「**プログラム ファイル パスのみにアクセスを制限**」を参照)。

パフォーマンス/最適化

ストリームのリライト: (stream_rewriting_enabled) サーバーがストリームをリライトすることで、ストリームを最適化できるようにします。例えば、サーバーは、データ・セットのサイズをできるだけ早く最小化するために、入力ノードの近くにデータ削減の操作をプッシュする場合があります。通常、このオプションを無効にすることが推奨されるのは、最適化が原因でエラーや予期しない結果が発生する場合だけです。この設定は、対応するクライアント最適化設定より優先されます。サーバーでこの設定が無効になっている場合、クライアントが有効に設定することはできません。ただし、サーバーでこの設定が有効になっている場合に、クライアントが無効に設定することは可能です。

並行処理: (max_parallelism) ストリーム実行中に SPSS Modeler で使用できる並行ワーカー・スレッドの数を記述します。0 または負の数に設定すると、IBM SPSS Modeler はスレッド数をコンピューター上の使用可能なプロセッサの数に一致させます。このオプションのデフォルト値は -1 です。並行処理を無効にするには (複数のプロセッサを持つマシンの場合)、このオプションを 1 に設定します。制限付き並行処理を有効にするには、マシン上のプロセッサの数より小さい値に設定します。ハイパースレッド・プロセッサまたはデュアルコア・プロセッサは、2 つのプロセッサと見なされます。

バッファ・サイズ (バイト)。 (io_buffer_size) サーバーからクライアントへ転送されるデータ・ファイルは、このバイト数のバッファを介して渡されます。

キャッシュの圧縮: (cache_compression) キャッシュと、サーバーの一時ディレクトリー内の他のファイルの圧縮を制御する 0 から 9 の範囲内の整数値。圧縮により、使用されるディスク・スペース量が削減されます。このことは、スペースが制限されているときには重要になります。また、キャッシュの作成と読み取りに必要なディスク・アクティビティーの量が減少するため、パフォーマンスが向上します。圧縮によってプロセッサ時間が増えますが、ほとんどすべての場合、ディスク・アクセス時間の短縮がそれを埋め合わせます。圧縮できるのは、順次アクセスされる特定のキャッシュだけであることに注意してください。このオプションは、ネットワーク学習アルゴリズムに使用されるような、ランダム・アクセスのキャッシュには適用されません。値を 0 にすると、圧縮が完全に無効になります。値が 1 から増えるにつれて圧縮度が高くなりますが、それに応じてアクセス時間が長くなります。デフォルト値は 1 です。これより高い値が必要になることは、ディスク・スペースが限られている場合を除いてほとんどありません。

メモリー使用率の乗数: (memory_usage) ソートやその他のメモリー内キャッシュに割り振られる物理メモリーの比率を制御します。デフォルトは 100 です。これは、物理メモリーの約 10% に相当します。空きメモリーがある場合は、この値を高くするとソート・パフォーマンスが向上しますが、あまりに高くすると過度のページングの原因となるため、注意が必要です。

モデル作成のメモリー制限パーセント: (modelling_memory_limit_percentage) Kohonen および *k*-Means の各モデルの学習に割り振られる物理メモリーの比率を制御します。デフォルトは 25% です。空きメモリーがある場合は、この値を高くすると学習パフォーマンスが向上しますが、あまりに高くすると、データがディスクにあふれる場合に過度のページングが発生する原因となるため、注意が必要です。

モデル作成メモリーの上書きの許可: (allow_modelling_memory_override) 特定のモデル作成ノードで「**速度の最適化**」 オプションを有効または無効にします。デフォルトでは有効に設定されます。このオプションにより、モデル作成アルゴリズムが、メモリーの比率制限オプションを無視して、使用可能なすべてのメモリーを要求できるようになります。サーバー・マシンのメモリー・リソースを共有する必要がある場合は、このオプションを無効にすることをお勧めします。

最大および最小サーバー・ポート: (max_server_port および min_server_port) インタラクティブ・モデルおよびストリーム実行のために必要なクライアントとサーバーの間の追加ソケット接続に使用できるポート番号の範囲を指定します。これらを指定した場合、サーバーは別のポートを listen する必要があります。範囲を制限しないと、ファイアウォールのあるシステム上のユーザーに問題を引き起こす可能性があります。どちらもデフォルト値は -1 です。これは「制限なし」を意味します。したがって、例えば、サーバーが 8000 以上のポートを listen するように設定する場合は、min_server_port を 8000、max_server_port を -1 に設定します。

ストリームを開くため、または実行するために、サーバーのメインポートに加えて追加ポートを開く必要があります。また、並行ストリームを開くこと、または実行することが必要な場合は、それに応じてさらに追加ポートを開く必要があります。これは、ストリーム実行からフィードバックを取得するために必要です。

デフォルトでは、IBM SPSS Modeler は使用可能な任意の開いたポートを使用します。そのようなポートが検出されない場合 (例えば、ファイアウォールによってすべて閉じられている場合)、ストリーム実行時にエラーが表示されます。ポートの範囲を構成するために、IBM SPSS Modeler では、並行ストリームごとにメイン・サーバー・ポートのほかに使用可能な 2 つの開いたポートと、接続されたクライアント内からの ODBC 接続ごとに 3 つの追加ポート (その ODBC 接続の期間中の ODBC 接続用の 2 つのポートおよび認証用の追加的一時ポート) が必要になります。

注: ODBC 接続は、データベース接続リスト内の 1 つの項目であり、同じデータベース接続を使用して指定された複数のデータベース・ノード間で共有できます。

注: 接続が異なるタイミングで行われた場合に認証ポートを共有することは可能です。

注: IBM SPSS Collaboration and Deployment Services と SPSS Modeler Client の両方との通信で同じポートを使用することが、ベスト・プラクティスとして規定されています。これらは、max_server_port および min_server_port として設定できます。

注: これらのパラメーターを変更した場合、SPSS Modeler Server を再起動して変更を有効にする必要があります。

配列フェッチの最適化: (sql_row_array_size) SPSS Modeler Server が ODBC データ・ソースからデータをフェッチする方法を制御します。デフォルト値は 1 で、一度に 1 行をフェッチします。この値を大きくすると、サーバーはより大きいチャンクで情報を読み取り、指定した数の行を配列にフェッチします。一部のオペレーティング・システム/データベースの組み合わせでは、こうすることで SELECT 文のパフォーマンスが向上します。

SQL

SQL 文字列の最大の長さ: (max_sql_string_length) SQL でデータベースからインポートされる文字列について、正常に渡すことを保証する最大文字数。オペレーティング・システムによっては、この値より長い文字列値は、警告なしに右から切り捨てられる場合があります。有効な範囲は 1 文字から 65,535 文字です。このプロパティはデータベース・エクスポート・ノードにも適用されます。

注: このパラメーターのデフォルト値は 2048 です。分析しているテキストが 2048 文字を超える長さである場合 (例えば SPSS Modeler Text Analytics Web フィード・ノードを使用している場合に超える可能性があります)、ネイティブ・モードで作業している場合はこの値を大きくすることをお勧めします。そのようにしないと、結果が切り捨てられることがあります。データベースおよびユーザー定義関数 (UDF) を使用している場合、この制限は発生しません。このことが、ネイティブ・モードと UDF モードの間の結果が異なる原因となります。

自動 SQL 生成: (sql_generation_enabled) ストリームに対して自動 SQL 生成を可能にします。これによってパフォーマンスが大幅に向上する可能性があります。デフォルトでは有効に設定されます。このオプションを無効にすることが推奨されるのは、データベースが SPSS Modeler Server から送信されたクエリーをサポートできない場合のみです。この設定は、対応するクライアント最適化設定より優先されるので注意してください。また、スコアリングのために、この設定にかかわらず、モデル作成ノードごとに個別に SQL 生成を有効にする必要があることにも注意してください。サーバーでこの設定が無効になっている場合、クライアントが有効に設定することはできません。ただし、サーバーでこの設定が有効になっている場合に、クライアントが無効に設定することは可能です。

SQL 文字列のデフォルト長。 (default_sql_string_length)。データベース・キャッシュ・テーブル内に作成される文字列の列のデフォルト幅を指定します。上流のデータ型の情報がない場合、データベース・キャッシュ・テーブル内に作成される文字列フィールドの幅は、デフォルトの 255 になります。データ内にこの値よりも幅が広い値がある場合、上流のデータ型ノードをこれらの値でインスタンス化するか、このパラメーターをこれらの文字列値に対応した大きい値に設定します。

SQL タイプのロギングのサポート。 (supported_sql_type_logging)。デバッグ専用です。技術サポート担当者から指示された場合を除き、変更しないでください。

データベース UDF の有効化。 (`db_udf_enabled`)。 Y (デフォルト) に設定すると、SQL 生成オプションが、純粋な SPSS Modeler SQL ではなく、ユーザー定義関数 (UDF) SQL を生成します。UDF SQL は通常、純粋な SQL より優れています。

SSL

SSL の有効化: (`ssl_enabled`) SPSS Modeler と SPSS Modeler Server の接続のために SSL 暗号化を有効にします。

鍵ストア。 (`ssl_keystore`) サーバーの起動時にロードされる SSL 鍵データベース・ファイル (絶対パスまたは SPSS Modeler インストール・ディレクトリーからの相対パスのいずれか)。

鍵ストア stash ファイル。 (`ssl_keystore_stash_file`) サーバーの起動時にロードされる鍵データベース・パスワード stash ファイルの名前 (絶対パスまたは SPSS Modeler インストール・ディレクトリーからの相対パスのいずれか)。

鍵ストア・ラベル。 (`ssl_keystore_label`) 指定された証明書のラベル。

注: SSL 用にサーバーをセットアップして管理コンソールを使用するには、SPSS Modeler Server が必要とする証明書をすべて、Deployment Manager トラストストア (`../jre/lib/security` の下) にインポートする必要があります。

注: これらのパラメーターを変更した場合、SPSS Modeler Server を再起動して変更を有効にする必要があります。

Coordinator of Processes の構成

ホスト: (`cop_host`) Coordinator of Processes Service のホスト名または IP アドレス。デフォルトの「`spsscop`」は、管理者が DNS の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services ホストの別名として追加できる仮の名前です。

ポート番号: (`cop_port_number`) Coordinator of Processes Service のポート番号。デフォルトの 8080 は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services のデフォルトです。

コンテキスト・ルート。 (`cop_context_root`) Coordinator of Processes サービスの URL。

ログイン名: (`cop_user_name`) Coordinator of Processes Service への認証用のユーザー名。これは IBM SPSS Collaboration and Deployment Services のログイン名であるため、セキュリティー・プロバイダーの接頭辞を含む場合があります (例: `ad/jsmith`)。

パスワード: (`cop_password`) Coordinator of Processes Service への認証用のパスワード。

注: Modeler Administration Console を使用せずに、手動で `options.cfg` ファイルを更新する場合、ファイル内で指定した `cop_password` の値を手動でエンコードする必要があります。平文パスワードは無効であり、平文パスワードを使用すると Coordinator of Processes への登録は失敗します。

パスワードを手動でエンコードするには、次の手順を実行します。

1. コマンド・プロンプトを開き、SPSS Modeler の `./bin` ディレクトリーに移動します。
2. ユーザー名の入力を求められたら、ユーザー名 (`options.cfg` で指定している `cop_user_name`) を入力し、Enter キーを押します。
3. パスワードの入力を求められたら、そのユーザーのパスワードを入力します。

エンコードされたパスワードが、返された文字列の一部として、コマンド・ラインで二重引用符に囲まれて表示されます。以下に例を示します。

```
C:¥Program Files¥IBM¥SPSS¥Modeler¥17¥bin>pwutil
User name: copuser
Password: Pass1234
copuser, "0Tqb4n.ob0wrs"
```

4. エンコードされたパスワード (二重引用符は含めない) をコピーし、*options.cfg* ファイル内で、`cop_password` の値のために既に存在する二重引用符の間にそのパスワードを貼り付けます。

有効: (`cop_enabled`) サーバーが Coordinator of Processes への登録を試行するかどうかを決定します。デフォルトは登録しないです。これは、Coordinator of Processes を介して公開するサービスは管理者が選択する必要があるからです。

サーバー名: (`cop_service_name`) この SPSS Modeler Server インスタンスの名前です。デフォルトはホスト名です。

説明: (`cop_service_description`) このインスタンスの説明。

更新間隔 (最小): (`cop_update_interval`) キープアライブ・メッセージの間隔 (分) です。デフォルトは 2 です。

重み: (`cop_service_weight`) このインスタンスの重み。1 から 10 の整数で指定します。重みが大きいほど、接続数は増えます。デフォルトは、1 です。

サービス・ホスト: (`cop_service_host`) IBM SPSS Modeler Server ホストの完全修飾ホスト名。ホスト名のデフォルトは自動的に派生します。管理者は、マルチホームのホストのデフォルトをオーバーライドすることができます。

options.cfg で表示されるオプション

ほとんどの構成オプションは、IBM SPSS Modeler Administration Console を使用して変更できます。ただし、このセクションで説明するような例外がいくつかあります。このセクションに示すオプションは、*options.cfg* ファイルを編集することによって変更する必要があります。詳しくは、7 ページの『第 3 章 IBM SPSS Modeler Administration Console の使用』および *options.cfg* ファイルの使用を参照してください。

administrators: 管理者権限を付与するユーザーのユーザー名を指定します。詳しくは、7 ページの『Modeler Administration Console でのアクセスの構成』のトピックを参照してください。

allow_config_custom_overrides: 技術サポート担当者から指示された場合を除き、変更しないでください。

fips_encryption: FIPS に準拠した暗号化を使用可能にします。デフォルトは N です。

group_configuration: 有効になっている場合、IBM SPSS Modeler Server は、どのユーザーがサーバーにログオンできるかを制御する *groups.cfg* ファイルを検査します。詳しくは、グループの構成を参照してください。

max_transfer_size: 内部システム専用です。変更しないでください。

shell: (UNIX サーバーのみ) UNIX シェルのデフォルト設定を上書きします (shell, "/usr/bin/ksh" など)。デフォルトでは、IBM SPSS Modeler は、IBM SPSS Modeler Server に接続しているユーザーのユーザー・プロファイルに定義されているシェルを使用します。

start_process_as_login_user: プライベート・パスワード・データベースを使用して SPSS Modeler Server を実行しており、root 以外のアカウントからサーバー・サービスを開始している場合は、これを Y に設定します。

use_bigint_for_count: カウントされるレコードの数が、通常の整数 (2³²-1) での上限を超えている場合、このオプションを Y に設定します。ストリームが DB2 または SQL Server に接続されている場合にこのオプションを Y に設定すると、レコード件数が必要な場合には (例えば、レコード集計ノードによって生成された「Record_Count」フィールドで) COUNT_BIG() が使用されます。

SPSS Modeler Server の監視

Modeler Administration Console の監視用ペインには、SPSS Modeler Server コンピューター上で実行されているすべてのプロセスのスナップショットが表示されます。これは Windows タスク・マネージャーに似ています。監視用ペインをアクティブにするは、「サーバー管理者」ペインの該当するサーバーの下にある、監視ノードをダブルクリックします。これにより、サーバーからのデータの現在のスナップショットがペインに取り込まれます。データは、表示された間隔でリフレッシュされます (デフォルトは 1 分ごと)。データを手動でリフレッシュするには、「リフレッシュ」ボタンをクリックします。SPSS Modeler Server プロセスのみをリストに表示するには、「SPSS Modeler プロセス以外を除外」ボタンをクリックします。

第 4 章 IBM SPSS Text Analytics Administration Console の使用

IBM SPSS Text Analytics Administration Console では、IBM SPSS Modeler Text Analytics Server のインストールを監視し、設定するユーザー・インターフェースを用意しています。IBM SPSS Text Analytics Administration Console は、Microsoft Windows コンピューターにのみインストールできますが、サポートされたプラットフォームにインストールされている IBM SPSS Modeler Text Analytics Server を管理できます。

IBM SPSS Text Analytics Administration Console を使用して、Web サーバー接続を管理するほか、IBM SPSS Modeler Text Analytics セッションを管理することもできます。具体的には、Web フィード・データまたは翻訳ノードの翻訳テキストを「保存して再利用」する場合、この保存されたセッション・データを今後必要のない場合に削除できます。

IBM SPSS Modeler のコンソールを使用する場合、IBM SPSS Modeler Text Analytics のセッション・データは同じウィンドウで管理します。

IBM SPSS Text Analytics Administration Console の開始

IBM SPSS Text Analytics Administration Console インストールおよび設定したあと、左側の「サーバー管理」ウィンドウに、管理する IBM SPSS Modeler Text Analytics Server のノードが表示されます。右側のペインには、選択したサーバーの構成オプションが表示されます。初めてアプリケーションを実行する場合、どれのウィンドウもブランクです。

IBM SPSS Text Analytics Administration Console を起動するには

Microsoft Windows の「スタート」メニューから、「[All] Programs > IBM SPSS Modeler 17」「IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager」>「IBM SPSS Text Analytics Administration Console」を選択します。

サーバー構成設定

「構成」ペインには、IBM SPSS Modeler Text Analytics Server の構成オプションが表示されます。必要に応じてこのウィンドウを使用してオプションを変更し、メニューから「ファイル」>「保存」を選択して変更を保存します。

重要: 変更を有効にするには、サーバーの Web サービスを再起動する必要があります。

表 2. サーバーの一般設定

設定	説明
Web サービス・ポート番号	受信する IBM SPSS Modeler Text Analytics Server のポート番号。別のアプリケーションが既にデフォルトを使用している場合は、これを変更します。エンド・ユーザーは、IBM SPSS Modeler Text Analytics Server を使用するためにポート番号を知っている必要があります。変更および保存したあと、新しいポート番号でサーバー・プロパティを更新する必要があります（「サーバー管理」タブのサーバーを右クリックして、ドロップダウン・メニューの「プロパティ」を選択します）。詳しくは、3 ページの『管理対象サーバー・プロパティの表示』のトピックを参照してください。

表 2. サーバーの一般設定 (続き)

設定	説明
初期メモリー・サイズ (MB)	JVM アプリケーションに割り当てられているメモリの量を制御する、初期の Java™ ヒープ・サイズ。
最大メモリー・サイズ (MB)	最大の Java ヒープ・サイズ。値 -1 は制限がないことを示します。

表 3. SSL パラメーター

設定	説明
SSL を有効にする	IBM SPSS Modeler Text Analytics と IBM SPSS Modeler Text Analytics Server の接続の SSL 暗号化を有効化します。 注: SSL 用にサーバーをセットアップして管理コンソールを使用するには、SPSS Modeler Server が必要とする証明書をすべて、Deployment Manager トラストストア (../jre/lib/security の下) にインポートする必要があります。
秘密鍵ファイル	サーバー起動時に読み込む PKCS-12 形式の鍵ストアの名前を入力します。ここにファイル名を入力します。ファイルが IBM SPSS Modeler Server インストール・ディレクトリーの次のサブディレクトリーにあることを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows: %ext%bin%spss.TMWBServer%lib • UNIX: /ext/bin/spss.TMWBServer/lib <p>この鍵ストアを生成するには、IBM SPSS Modeler の SSL を構成するために使用した鍵データベース・ファイル名 (.kdb ファイル、証明書ラベル、およびパスワード) を指定して GSKit コマンドを実行します。以下に例を示します。</p> <pre>gsk8apicmd.exe -cert -export -db <keystore_filename>.kdb -pw <password> -label <certificate label> -target <keystore_filename>.p12 -target_type pkcs12 -target_pw</pre> <p>この例で、<keystore_filename>.p12 は、IBM SPSS Modeler Text Analytics Server で使用される PKCS-12 鍵ストアの名前です。</p>
秘密鍵のパスワード	指定した証明書のパスワード・キー。前のコマンドで使用されたターゲット・パスワードを入力して、PKCS-12 証明書ファイルを生成します。.

UNIX プラットフォームに関する注記: 一部の JVM に付属する Java Cryptography Engine (JCE) は、Identity Provider 内で使用されるさまざまな仕様で要求されるすべての暗号アルゴリズムをサポートしているわけではありません。この場合、BouncyCastle JCE がこのサポートを提供します。 BouncyCastle JCE を有効にするには、<modeler_server_install>/ext/bin/spss.TMWBServer/jre/lib/security ディレクトリーにある java.security ファイルを編集して、末尾の security.provider エントリーの後に次の行を追加する必要があります。 security.provider.#=org.bouncycastle.jce.provider.BouncyCastleProvider ここで# は、リスト中の最後のプロバイダーに 1 を加えた数で置き換えてください。

Apache Axis2 に関する注記: この製品で Apache Axis2 のアップデートが行われたため (IBM SPSS Modeler 15 FP1 以降)、ホスト名を検証するアップデートを組み込むために、確実に SSL 証明書を再生成しておく必要があります。このアップデートでは、CN フィールドに有効な完全修飾ホスト名が指定されている必要があります。これは、Axis2 サービスを要求するときに、証明書で提供される CN フィールドが、クライアントで使用するホスト名と比較されるようになったためです。証明書を再生成したら、完全修飾ホスト名を使用して、管理コンソールを通じて IBM SPSS Modeler Text Analytics Server に接続する必要があります。そのようにしない場合、接続は失敗します。

表 4. ログ記録・パラメーター

設定	説明
ログ・レベル	実行する必要があるロギング・レベルを示します。指定できる値は次のとおりです。 NONE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL
ログ・ファイルの最大サイズ (KB)	この設定は、ログ・ファイルがロールされる前にログ・ファイルが使用できる最大領域です。サイズはキロバイト (KB) で指定されます。このパラメーターで指定できるのは、数値のみです。デフォルト値の 0 を指定すると、ログのロールが無効になります。
ログ・ファイルの最大数	古いログ・ファイルを削除する前に保存するログ・ファイルの最大個数です。デフォルト値の 0 は、ログの最大個数がないことを意味します。

サーバー・セッション・テーブル

IBM SPSS Text Analytics Administration Console のセッション・ウィンドウには、IBM SPSS Modeler Text Analytics Server コンピューターで実行しているすべてのセッションのスナップショットが表示されています。

1. セッション・ウィンドウをアクティブ化するには、「サーバー管理」ウィンドウの該当するサーバーの下にあるセッション・ノードをダブルクリックします。データは、表示された間隔で更新されます (デフォルトは 1 分ごと)。
2. データを手動で更新するには、「更新」 ボタンをクリックします。

セッション ID: セッションの内部識別子です。

説明: Web フィードまたは翻訳結果を保存して再利用する場合、ノードで指定したラベルがここに表示されます。そうでない場合、汎用の *Text_Mining* が表示されます。

役割: この列は、セッションが果たす役割について説明します。

ユーザー名: Web サーバーで指定されたユーザー名です。

一時ディレクトリー: セッションで生成されたデータのディレクトリー・パスです。

タイム・スタンプ: セッションを開始した日付と時刻です。

永続: セッション終了後もセッションを維持するかどうかを指定します。**false** に設定すると、セッション終了時にエントリーを削除することを示します。Web フィードまたは翻訳結果を保存および再利用する場合、セッションをここで直接削除するまでこのデータを保存する必要があるため、「永続」を **true** に設定します。

第 5 章 Web サービスの再起動

管理コンソールで、IBM SPSS Modeler Server と IBM SPSS Modeler Text Analytics Server のいずれかに変更を加えたときは、Web サービスを再起動する必要があります。

Microsoft Windows で Web サービスを再起動するには、以下を行います。

1. IBM SPSS Modeler をインストールしたコンピューターで、「コントロール パネル」の「管理ツール」から、「サービス」を選択します。
2. リストで「**IBM SPSS Modeler Server**」を見つけ、再起動します。
3. 「**OK**」をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

UNIX で Web サービスを再起動するには、以下を行います。

UNIX の場合、IBM SPSS Modeler Server インストール・ディレクトリーの **modelersrv.sh** スクリプトを実行して、IBM SPSS Modeler Serverを再起動する必要があります。

1. IBM SPSS Modeler Server のインストール・ディレクトリーに変更します。例えば、UNIXコマンド・プロンプトで次のように入力します。

`cd /usr/<modelersrv>`。この場合modelersrv は IBM SPSS Modeler Server インストール・ディレクトリーです。

2. サーバーを停止するには、コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
./modelersrv.sh stop
```

3. サーバーを再起動するには、コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
./modelersrv.sh start
```

特記事項

本情報は世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group

ATTN: Licensing

200 W. Madison St.

Chicago, IL; 60606

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

一時ディレクトリー
IBM SPSS Modeler Server 9

[カ行]

管理
Modeler Administration Console 5
Text Analytics Console 17
管理者アクセス
ユーザー・アクセス制御 (UAC) を使
用した 8
IBM SPSS Modeler Server 7
管理対象サーバー
サーバー情報 2
削除 4
タイプ 1
追加 1
プロパティ 3
ログアウト 4
ログイン 4
キャッシュの圧縮 10
構成オプション
一時ディレクトリー 9
概要 9
自動 SQL 生成 12
ストリームのリライト 10
接続とセッション 9
データ・ファイル・アクセス 9
パフォーマンスと最適化 10
並行処理 10
ポート番号 9
メモリー管理 10
ログインの試行 9
Coordinator of Processes 13
COP 13
SQL 文字列の長さ 12
SSL データ暗号化 13

[サ行]

サーバー・ポート設定
options.cfg ファイル 10

削除
管理対象サーバー 4
ストリーム実行のエラー 10

[タ行]

追加
管理対象サーバー 1

[ハ行]

表示
サーバー・プロパティ 3
ファイアウォールの設定
options.cfg ファイル 10
複数ストリームの実行 10
プロセッサ
複数 10
並行処理
制御 10
ポート設定
options.cfg ファイル 10
ポート番号
IBM SPSS Modeler Server 9

[マ行]

メモリー管理
管理オプション 10
モデル作成
メモリー管理 10

A

allow_modelling_memory_override
options.cfg ファイル 10
Apache Axis2 17

C

cache_compression
options.cfg ファイル 10
Coordinator of Processes の構成
IBM SPSS Modeler Server 13
COP の構成
IBM SPSS Modeler Server 13
cop_enabled
options.cfg ファイル 13
cop_host
options.cfg ファイル 13

cop_password
options.cfg ファイル 13
cop_port_number
options.cfg ファイル 13
cop_service_description
options.cfg ファイル 13
cop_service_host
options.cfg ファイル 13
cop_service_name
options.cfg ファイル 13
cop_service_weight
options.cfg ファイル 13
cop_update_interval
options.cfg ファイル 13
cop_user_name
options.cfg ファイル 13

D

data_files_restricted
options.cfg ファイル 9
data_file_path
options.cfg ファイル 9

E

encryption
FIPS 14

F

FIPS 暗号化 14

G

group_configuration 14

I

IBM SPSS Analytic Server
構成オプション 9
IBM SPSS Modeler Administration
Console 7
管理者アクセス 7
ユーザー・アクセス制御のアクセス 8
IBM SPSS Modeler Server
一時ディレクトリー 9
管理 7
管理者アクセス 7
構成オプション 9

IBM SPSS Modeler Server (続き)

- サーバー・プロセス 15
- 使用の監視 15
- プロパティ 3
- ポート番号 9
- ユーザー・アクセス制御のアクセス 8
- Coordinator of Processes の構成 13
- COP の構成 13

io_buffer_size
options.cfg ファイル 10

M

- max_file_size
options.cfg ファイル 9
- max_login_attempts
options.cfg ファイル 9
- max_parallelism
options.cfg ファイル 10
- max_sessions
options.cfg ファイル 9
- max_sql_string_length
options.cfg ファイル 12
- memory_usage
options.cfg ファイル 10
- modelling_memory_limit_percentage
options.cfg ファイル 10

O

options.cfg 14

P

- port_number
options.cfg ファイル 9
- program_files_restricted
options.cfg ファイル 9
- program_file_path
options.cfg ファイル 9

S

- SQL 生成
 - IBM SPSS Modeler Server 用に有効化
12
- sql_generation_enabled
options.cfg ファイル 12
- SSL 設定
 - Text Analytics Console 17
- SSL データ暗号化
 - IBM SPSS Modeler Server 用に有効化
13
- ssl_certificate_file
options.cfg ファイル 13

- ssl_enabled
options.cfg ファイル 13
- ssl_private_key_file
options.cfg ファイル 13
- ssl_private_key_password
options.cfg ファイル 13
- stream_rewriting_enabled
options.cfg ファイル 10

T

temp_directory
options.cfg ファイル 9

U

UNIX
Web サービスの再起動 21

W

Web サービス - 再起動 21
Web サービスの再起動 21
Windows
Web サービスの再起動 21



Printed in Japan